

会報 わかくさの風

No.14

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

⇒6月10日、交流会での様子
みなさんいい顔でピース



ちゃんと食べないとだめだよ！ ある利用者との会話

40代前半の男性で、重度の知的障害のあるKさんは、多機能型事業所「わかくさ」に通所している。事務所にいる職員が気になるのか、昼休みによく事務所を訪ねてくる。彼が私に必ず言うことがある。

「食事した？」
「ちゃんと食べとだめだよ！」

昼食はいつも外で食べているが、食べる時間がない時は、買い置きしているカップラーメンを食べることもある。そのような場面を何回か見ているのだろうか。彼は「ラーメンばかり食べていると身体を壊すよ！」と声をかけてくれる。あっ！そうだな」と思う。

こんなやりとりが月に数回ある。彼が言うことはもっともであり、ひとつも間違っていない。しかし、彼のアドバイスが重なる、自分の中で、そんなことは分かっているよ。そう何回も言わないで！」という気持ちになることもある。彼が心配してくれているにもかかわらず、分かった！分かった！」という心境である。

しかし、年齢とともに増えていくのは、診察券の枚数と腹囲であり、生活習慣病を抱えている私にとっては、彼の忠告は耳の痛い話である。

彼自身、食生活について同じように注意を受けているのかも知れない。カップラーメンばかり食べていると健康を害することは認識している。今、彼はグループホームに入居し、規則的な生活をするようになってから、体重も減り、体調も良いようである。

彼のこの優しさや気づかいはどこから生まれているのだろうか？彼の人なっごさもあり、安心できる社会(大間)関係の中で生きてきたに違いない。このような関係の中で人の優しさや思いやりを育み、獲得してきたのだろうか。私を気遣って注意してくれるこの優しさは、彼自身の生きる力でもある。

こう思うと、分かった！分かった！」といった不遜な気持ちになった自分を強く戒めている。あらためて彼に感謝したい。ありがとう！！

統括施設長 竹嶋 紘



平成29年度交流会 利用者の主役

◆利用者が主役



6月10日
(土)に朝霞市
民会館 ゆめ
ぱれすにて、
わかくさ、ゆ
うゆう、かが
やき、グルー
プホームの利
用者のみなさ
んの交流会を行いました。利用者、職員合わせて約120名の参加がありました。

事前に利用者のみなさんに「ピクニック」「食事」「カラオケ」などが良いかを選んでもらい、得票数が多かった「食事」が今年度の交流会の内容となりました。

「利用者さんが主役!」ということで、それぞれの事業所から利用者の実行委員を選出しました。駅前清掃などの忙しい業務の合間に、なんとかみんなが集まり、どんなことをしたらみんなが楽しめるか、必要な準備は何かなど考える会議を行い、

実行委員からは「ビンゴがいいと思う」「ゲストがいたら楽しい」などアイデアが出てきました。景品の買い物も職員と実行委員が行い、商品を選ぶのももちろん実行委員。職員は口を挟みたくなくなるのをぐっと我慢し、利用者の方々に任せ、準備を行ってきました。

◆事業所間の交流

交流会当日、参加されたみなさんは思い思いのおしゃべりをして、仕事ではない解放感を満喫しつつ、学校時代の友人との再会を楽しんだり、異動した職員と近況の報告をし合ったり。コミュニケーションが難しい方たちもきつとその雰囲気を感じとっていたことでしょうか。不慣れた場所が苦手な方も、お料理を食べるまでは難しかったけど、みんなと同じ空間で同じ時間を過ごせたことに満足感や達成感を感じてくれたのだらうと信じ願っています。



◆実行委員の様子



さて、準備を頑張ってきた実行委員は当日も司会や開会の言葉、ゲームの進行など役割がたくさんあり、会を楽しみむどころか緊張で顔が強張っている人もいました。それでも緊張しながらも堂々とそれぞれの役割を果たす様子は本当に頼もしく眩しいものでした。統括施設長や他の施設の人たちにも「よくやった」「かっこいい」と言われ、達成感に満ちた表情で会を終え、帰りの車では緊張から解放されぐっすり眠りながら帰った実行委員たちでした。



◆みんならしい交流会を

利用者からの要望で始まり、利用者の手で企画された交流会。まだまだ職員が陰でコソコソと手伝って

ますが、ひとつづつ経験を積んで、これからもっと「みんならしい」交流会ができるようになると思います。ゆうゆう 浜田

新理事について

戸田わかさ会新理事(任期平成29年6月19日〜平成31年の定時評議員会の終結日)

- ・横山ユタカ理事長(再任)
- ・戸田わかさ会前理事長
- ・山崎豊理事(再任)
- ・学識経験者
- ・本川和代理事(再任)
- ・学識経験者
- ・齊藤千英子理事(新任)
- ・戸田わかさ会後援会長
- ・竹嶋紘理事(再任)
- ・戸田わかさ会統括施設長
- ・鈴木利夫理事(新任)
- ・戸田わかさ会職員
- ・和田雅彦理事(新任)
- ・戸田わかさ会職員
- ・酒井正博理事(新任)
- ・戸田わかさ会職員

3 事業所合同家族会開催

合同家族会は去る5月13日午後から戸田市民立文
 化会館会議室にて三事業所家族約50名と職員が参
 加して行われました。戸田わかくさ会も法人化さ
 れて13年目になりますが、利用者や職員等の入れ
 替わりもあり、法人の沿革、理念や各事業所の家
 族と職員が今後の歩むべき道についてお互いに共
 通理解を図り、協力体制をますます強固なものに
 していこうということがねらいでした。統括施設
 長の話、各事業所の職員紹介と新年度の取り組み
 を発表した後、わかばより 戸田わかくさ会の取
 り組み」と題して特別報告がありました。



その後、各事業所ごとに部屋に分かれて、事務
 連絡や家族と事業所との伝達、話し合いが行われ
 ました。

家族会は各事業所
 毎にも行っています
 が、全体で法人の取
 り組みや各事業所の
 職員や取り組みを聴
 く機会もあまりあり
 ませんので参考になっ
 たのではないでしょ
 うか。

鈴木

委員会・PTの取り組み

戸田わかくさ会では法人本部の他に8つの事業所があります。法人全体の課題を、事業所の垣根を越えて取り組むために、9つの委員会と2つのプロジェクトチーム(PT)を設けて取り組んでいます。

- ◆ **研修委員会**
 法人が主催する公開研修・実践
 交流会・実践報告集の企画・運
 営
- ◆ **防災委員会**
 各事業所の防災対策を検討
- ◆ **業務標準化・事務管理委員会**
 各事業所の業務の標準化を検討
- ◆ **安全衛生委員会**
 職員の安全衛生の向上を検討
- ◆ **防火管理委員会**
 各事業所の防火管理者を中心に
 対策を検討
- ◆ **虐待・権利擁護委員会**
 虐待・権利擁護のための対策を
 検討
- ◆ **広報・ホームページ委員会**
 法人の広報紙・HPの企画・運
 営
- ◆ **実習指導者委員会**
 社会福祉士・精神保健福祉士の実習
 生の受入れを検討
- ◆ **表現活動委員会**
 表現活動の取り組みを検討
- ◆ **グループホーム開設PT**
 新規のGHの設置に向けて検討
- ◆ **就B設置PT**
 就労継続B型の設置に向けて検
 討



各事業所のとりくみ

わかくさ

支援の充実に向けて
 ↳ 発達検査の導入 ↳

◆ 新たな取り組み

今年度の新たな取り組みとして、田中ビ
 ネー式による発達検査を始めました。経験
 だけによる支援から脱却すること、そして
 生活の中でのアセスメントや客観的で科学
 的根拠に基づいた検査によるアセスメント
 を軸に支援を組み立てることで、利用者1
 人ひとりに即した支援を行うことを目的と
 しています。



検査 V ケー
 ーに出
 ニな果
 ュ手結
 ミ苦的
 コが言
 ビの言
 中トで
 田ツ薬
 ~キ言
 シもや
 ます。

検査は、さいたま市にある『こうぬま
 心理相談室』に委託し、臨床心理士の方に
 わかくさに来ていただき、検査と結果報告
 してもらっています。

実際に5月に1名の利用者の検査を受け、
 7月に報告会を実施しました。検査を受け

る利用者の方に、なるべく安心して取り組めるよう写真やイラストを用いて導入支援を実施、スムーズに、そして意欲的に取り組んでいました。

◆行動の背景にある気持ち

また、結果報告会では、精神年齢など数値だけでなく、検査時の本人の様子や育ってきた環境の視点の重要性、利用者の行動の背景にある気持ちなどを思いめぐらせてみるなど、支援の視点にも気づきを与えてくれた報告会でした。今後も2か月に1人ずつ、継続して行っていきます。支援の質を高めるとともに、職員の成長の糧となるよう取り組んでいきます。

(石川)

ゆうゆう

大漁丸 たいりょうまる()の活動

昨年度、24時間テレビから寄贈されました、6人乗りトラック『アトラス』が4月7日(金)に納車されました。

トラックの名前は『大漁丸2016』と命名し、生産活動に勢いが出るよう、ナンバーにもこだわり、『3・1・5・0 サイコー』と語呂を合わせました。

大漁丸の活動ですが、どら焼きの納品業務や付録の分別作業の納品を

メインに使っています。ゆうゆうにおいて初めてのトラックという事もあり地域イベントの準備でも大活躍しています。

◆大漁丸で新たな仕事を

ゆうゆうの利用者の方からも大漁丸に乗ってみたい」との声が多く



あり、空いている時は、フラワーセンターやアトリエ創庫へ向かう時にも活躍しています。トラックに乗った利用者さんは目をキラキラさせながら、笑顔で乗っている姿が微笑ましく思います。

今後も『大漁丸2016』で最高の仕事をを行い工賃向上を目指して行きます。

(鈴木)

かがやき

利用者との取り組み 夏季物品販売

◆夏季物品の取り組み

「こっちは『あごふりだし』で、こっちは『鯉ふりだし』ね」
「包装紙が破れちゃったんですけど・・・」
「このゼリー夜中にこっそり食べるのかなあ。」

いつも物品販売にご協力くださりありがとうございます。物品販売の作業は、こんな会話をしながら山のような商品を仕分け、各事業所にお届けしています。

カタログ作り、集計、商品仕分け、配達、収支計算、すべての工程に利用者の方が携わっています。例えばカタログ作りでは、パソコンの得意な利用者が一から商品名を入力して、わかくさ会独自の注文書を作成します。昨年は入力ミスが17ヶ所ありましたが、今年は9ヶ所に減りました。このように利用者の得意な部分を活かし、就職へ向けた訓練の一環としても位置づけをしています。

商品配達では、かがやきであいさつの練習をしながら出発しています。各事業所のみなさん、商品と一緒に

元気な挨拶をお届けできたでしょうか？

◆冬季物品もお願いします

物品販売は、利用者の工賃UPにもつながっています。物品販売が自分たちの工賃につながっているという意識を持って取り組んでいます。11月には冬季物品販売があります。お一つでも注文していただくことで、利用者のやる気につながります。ぜひ、ご協力をお願い致します。

(由内)

グリーンガラス

◆サテライトの住居の取り組み

今年度当初より、一人暮らしへのステップアップとして、サテライト住居の開所を行いました。このサテライト住居とは、グループホームの支援体制を利用しながら、グループホームから離れた住居(賃貸物件のワンルーム)で生活する仕組みです。ご存じの通りグリーンガラスでは現在3箇所(ホーム)を運営しています。この内のグリーンガラス第二上戸田の定員を2名増やし、増えた2名分の部屋を借りました。

サテライトの部屋は、第二上戸田及び上戸田から徒歩5分の所にあり、3階建てマンションの2階に1部屋、3階に1部屋設置しました。昨年度後半に、サテライト住居へ

の希望者を募り、体験実習を経て2名が決まりました。

1名は以前から一人暮らしを希望しており、体験実習終了時には「絶対ホームには戻らない」と宣言をして5月の連休中に引越越しを行い、利用を開始しました。現在、夕食や休日の食事は自炊をしながら、一人暮らしに向けて生活しています。

もう1名は、集団生活の暮らしにくさを訴えていました。「一緒に暮らしている入居者に気を使ったり、お風呂の順番を待ったりすることを負担に感じていました。現在は食事を食べにホームに寄りますが、それ以外は自分の部屋で、他の人のことを気にせず、のびのびと生活しています。

2名共、清掃やゴミ出しなど、まだ課題はありますが、一歩ずつ一人暮らしへのステップしている様に感じます。

◆それぞれの暮らしを支える

共同生活を好み、他の人と関わる事が楽しい入居者の方もいれば、一人でゆっくり過ごすことが好きな入居者もいます。サテライト住居は、防犯や危機管理上、非常に難しい支援体制です。しかし、入居者の方が暮らしたいと思う形を提供していくことが、今後のグリーングラスの課題になっていきます。

鈴木

わかば

障害が重くても、地域で生活を続けたい
〜在宅重度障害者の訪問支援事業
戸田市独自事業〜

わかばでは、平成17年より在宅重度障害者訪問支援事業 戸田市助成(事業)を行っています。障害が重度のために、日中活動の場等への通所が困難な方を対象に、わかばの職員が、週1回定期的に自宅を訪問し、コミュニケーションを中心に、生活の質の向上を図る為の支援を行っています。具体的には、語り合い、音楽鑑賞、パソコン利用支援、在宅生活の維持に関する相談 福祉サービス、制度の説明、情報提供)を行っています。

◆本人の楽しみを広げるために

この事業の利用者は、わかばの定期的な訪問を、何日も前から楽しみにしてくれています。本人のしたいこと、やりたいことを大切に、楽しい時間になるよう心掛けています。本人の関心は実にさまざまで、その関心の深さと広さには感心します。わかばの職員も協力して、さらに情報収集することもあります。本人の体調やわかばの都合で訪問がかなわないときは、お便りを通じて、楽しみにしてくれている本人の気持ちに

応えるようにしています。

◆地域につながる窓口として

この事業を利用していらっしゃる方の障害状況は、一人ひとり異なり、家族に支えられ、医療・福祉サービスを利しながら在宅生活を継続しています。障害状況及び社会資源の不足から、外出は決して容易ではありません。トイレ・休憩場所ひとつとっても、安心して外出することは難しいとご家族は話します。介護者である家族も含め、孤立しがちな状況で、わかばが関わることで、本人や家族の今、抱えている悩み、将来への不安に寄り添い、地域につながる窓口になればと思います。

◆この事業を知ってもらうこと

この事業は、地域で暮らす重度障害者の生活の質の向上を図る上で、とても大切な事業です。ぜひ、様々な方に知って頂き、必要とされている方々の利用に結びつけられたらと考えています。お問合せ、お申込みはわかばまでお願い致します。

武田

みなみ・就労支援C

仕事でプロになるようつとめ

私が支援をさせてもらっている20代の男性は、広告などを作る日本一

大きな会社の本社ビルで清掃の仕事をしています。初めて見学に行った日、巨大な高層ビルの上から豆粒のように小さな車が走る東京の街を見下ろしながら、まるで、テレビドラマのような世界だ」と目を輝かせました。

しかし、採用になってしばらくすると、彼は、自分が毎日清掃しているオフィスのフロアを行き交う人たちを見て、きつそうと歩く姿が輝いて見え、羨ましい。それに比べて自分は、・・・というように話しをしてくれました。私は、「この会社は、毎日大勢のお客さんがやって来ます。清潔でなかったらどう思うか。仕事のやる気も起きないかもしれない。気持ちよく仕事をしてもらうためにも清掃はとても重要な仕事ですよ」と伝えました。

話は変わりますが、羽田空港」は、世界で「一番清潔な空港」という評価をもらっているのだそうです。その清潔ナンバーワンを支えているのは24時間清掃にあたっている総勢700人のスタッフです。スタッフを率いる新津さんという女性指導者はすでにいろいろなところで紹介されているので、ご存知の方もいると思います。

彼女はNHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」の中でプロの仕事とは？と聞かれ、心を込(こ)める、

平成28年度 事業報告・決算報告

当法人の第65回理事会・第52回評議員会において、平成28年度の事業報告、及び決算報告が承認されました。その概要を報告いたします。

ということです。心とは、自分の優しい気持ちですね。心を込めないと本当の意味で、きれいにできないんですね。そのものや使う人のためにどこまでできるかを、常に考えて清掃しています。」と答えています。障害のある方で清掃を仕事にしている人は大勢いると思います。優しい心を使う人に届けられるといいですね。(清水)

法人
法人本部は、6本の柱に沿って事業を進めた。

- 1 新規事業の検討、展開
 - ・A.パート型グループホームの運営については、平成29年4月からサテライト型により事業開始した。
 - ・B型事業所(弁当作り)の開設に向け、プロジェクトチームを立ち上げ検討した。

2 生産活動の充実・強化

・わかくさの野菜販売の定期的開催は、地域の協力を得ながら利用者の参加のもと販売活動を行った。創作活動は、販売活動を行うとともに、美術品出品に積極的に参加した。

3 効率的業務の推進と支援の充実
・業務の標準化の推進を図るための各種マニュアルの整備・既定マニュアルの見直しについては、一定の取り組みを行うものの引き続き検討していくこととなった。

4 地域福祉向上の取り組み
・第2回わかくさ会まつりを実施した。社会貢献活動については、公開研修等実施したが、社会福祉法改正に伴ってさらなる貢献を求められているため、今後の検討課題となっている。

5 自己実現できる職場づくり
・キャリアパス制度の定着、人事考課システムの検討は、引き続き検討を重ねていく。

6 後援会、家族会との連携強化
・後援会とは車の両輪の関係であり連携を図ってきたが、お互いの理解の違いも見られた。情報の共有など意思疎通を十分図っていく必要がある。

・家族会については、予定通り開催することができたが、引き続き関係強化に取り組む必要がある。

なぐやま

多機能事業所 生活介護・就労継続B型) 定員45名で運営。28年度、新たに5名の利用者を迎え、実員46名となった。個別支援では電子記録ソフトによるケース記録の徹底を行い、支援の質の向上に活用した。生産活動は野菜販売に注力したことやボール洗浄作業の委託先の増加から前年度と比較し、売り上げが増加した。工賃平均支給額は、生活介護が約1万円、就労Bが1万6千円であった。

また、利用者役員を中心に自治会の充実を図った。その他、創作活動、機能維持・向上活動など計画的に実施した。

ゆめはら

就労継続支援B型事業所として指定管理者運営3期目の初年度であった。入退所者はなく、定員20名、利用契約者25名となっている。生産活動ではポスティング作業を開始、和菓子製造販売でも売り上げを伸ばし、平均工賃が昨年比10.6%増の33,967円/月となった。発達検査の導入やケース会議を増やし利用者一

人ひとりを多角的により理解することに力を注いだ。

ながやま

就労移行及び就労継続B型の多機能事業所で、指定管理者運営(5年間)の3期目の初年度であった。就労支援を重点に取り組み、移行事業から4名(内A型3名)就職することができた。B型でも就労を意識したB3グループを作った。生産活動では、川口保健所受託契約の更新手続を行い平成31年まで締結した。浦和競馬場野田厩舎等埼玉県から受注するなど評価を得ている。自治会活動やマイイベントの企画運営の取り組みの充実、生活講座や地域貢献活動を積極的に実施した。

グリーングラス

昨年度、グリーングラスでは定員の補充を行い、収入増を図った。また、入居者の安心した生活を維持するために、職員の確保に努めた。関係機関との連携では、障害福祉機関だけでなく、医療機関との連携も強化し、健康支援の充実を図った。個別支援では、個別支援計画の書式変更を行い、入居者の夢の実現計画と位置付け、豊かな生活支援に取り組んだ。

就労支援センター

登録者数234名うち、新規登録者33名、述べ就労者数127名、相談件数4640件となった。かみやきと定期的に連携会議を行い、就労者5名の連携した支援を行った。また、市民向けに利用説明会を実施した。みなみと共同で「ただわーく通信」を2回発行、検査ツール(MWS)を利用したアセスメントを実施し、ジョブマッチングの精度を高めるように支援した。戸田市地域自立支援協議会や就労推進部会等に参加し各機関との関係を図った。

みなみ

川口市・蕨市・戸田市を対象圏域として支援を実施した。登録者476名うち新規登録者74名、就労者71名、実習件数60件、相談件数9,023件となった。就労者のための交流会として就労支援センターと共同で良暇余暇サロン3回、湧々サロン10回、WRAP研修会9回、交流スペース43回を実施した。また、センター主催の情報交換会や、企業向けに障害者雇用の説明会等を実施した。戸田市、川口市の地域自立支援協議会や部会等に積極的に参画した。

わかほ

戸田市の委託を受けて相談支援事

業を実施した。登録者数326名、サービス利用計画及びモニタリング

184件、障害支援区分認定調査14件、相談 電話・来所・訪問・同行・ケア会議等)12308件となった。その他、在宅重度障害者訪問事業や埼玉県障害児等療育支援事業を実施した。

また、「親の5年後、子どもの5年後、「一緒に考えよう」勉強会 延べ87名参加)を通じた啓発事業や、戸田市地域自立支援協議会、相談支援事業所連絡会等へ参加し、地域づくり、相談支援体制づくりに取り組んだ。

ひかり

指定特定相談支援事業所として計画相談を実施した。登録者数140名、年間のサービス利用計画160件、モニタリング299件、電話相談・来所相談4040件、訪問・同行支援1286件、ケア会議960件等、法人内外の関係機関との積極的な連携・協力体制のもと、利用者本位の計画・相談に努めた。



社会福祉法人戸田わかさ会 平成28年度決算

資金収支計算書		事業活動収支計算書		貸借対照表	
(自)平成28年04月01日 (至)平成29年03月31日		(自)平成28年04月01日 (至)平成29年03月31日		平成29年03月31日現在	
(単位:円)		(単位:円)		(単位:円)	
事業活動による収支	勘定科目	決算額	勘定科目	決算額	資産の部
	収入		収入		【流動資産】
	就労支援事業収入	60,935,784	就労支援事業収益	60,935,784	178,495,715
	障害福祉サービス等事業収入	336,999,644	障害福祉サービス等事業収益	336,999,644	現金預金
	経常経費寄附金収入	1,942,405	経常経費寄附金収益	1,942,405	109,968,683
	受取利息配当金収入	38,577	サービス活動収益計(1)	399,877,833	事業未収金
	その他の収入	466,697	人件費	253,662,877	60,921,038
	事業活動収入計(1)	400,383,107	事業費	29,327,057	未収金
	支出		事務費	35,915,610	5,330,816
	人件費支出	252,009,277	就労支援事業費用	61,890,208	商品・製品
事業費支出	29,327,057	減価償却費	10,408,207	1,078,920	
事務費支出	35,915,610	国庫補助金等特別積立金取崩額	-4,696,609	原材料	
就労支援事業支出	61,853,590	サービス活動費用計(2)	386,507,350	755,505	
事業活動支出計(2)	379,105,534	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	13,370,483	立替金	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	21,277,573	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	13,370,483	295,897	
施設整備等補助金収入	388,000	受取利息配当金収益	38,577	前払金	
固定資産売却収入	73,617	その他のサービス活動外収益	466,697	144,856	
施設整備等収入計(4)	461,617	サービス活動外収益計(4)	505,274	未収消費税等	
固定資産取得支出	2,245,219	費用		0	
施設整備等支出計(5)	2,245,219	サービス活動外費用計(5)	0	【固定資産】	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-1,783,602	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	505,274	440,636,373	
収入		経常増減差額(7)=(3)+(6)	13,875,757	基本財産	
積立資金取崩収入	672,400	特別増減差額(7)=(3)+(6)	13,875,757	213,946,772	
その他の活動収入計(7)	672,400	施設整備等補助金収益	388,000	建物	
積立資産支出	24,686,000	特別収益計(8)	388,000	203,946,772	
その他の活動支出計(8)	24,686,000	国庫補助金等特別積立金積立額	5,084,609	定期預金	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-24,013,600	特別費用計(9)	5,084,609	10,000,000	
予備費支出(10)	-	特別増減差額(10)=(8)-(9)	-4,696,609	その他の固定資産	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-4,519,629	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	9,179,148	206,689,601	
前期末支払資金残高(12)	124,444,733	繰越活動増減差額(12)	178,305,076	建物	
当期末支払資金残高(11)+(12)	119,925,104	当期繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	187,484,224	4,745,092	
		基本金取崩額(14)	0	4,835,589	
		その他の積立金取崩額(15)	0	構築物	
		その他の積立金積立額(16)	22,360,000	1,005,040	
		前期繰越活動増減差額(17)=(12)-(14)-(15)+(16)	165,124,224	5,629,197	
				器具及び備品	
				80,150	
				建物仮勘定	
				1,012,702	
				権利	
				9,776,000	
				退職給付引当資産	
				199,114,724	
				積立資産	
				80,650	
				差入保証金	
				410,457	
				敷金	
				619,132,088	
				負債及び純資産の部合計	
				55,736,186	
				【流動負債】	
				事業未払金	
				48,943,302	
				その他の未払金	
				2,424,557	
				職員預り金	
				3,241,227	
				前受金	
				1,333,000	
				仮受金	
				32,400	
				未払消費税等	
				761,700	
				【固定負債】	
				9,776,000	
				退職給付引当金	
				9,776,000	
				純資産の部	
				基本金	
				23,000,000	
				国庫補助金等特別積立金	
				165,380,954	
				その他の積立金	
				199,114,724	
				当期繰越活動増減差額	
				187,484,224	
				次期繰越活動増減差額	
				165,124,224	
				(うち当期活動増減差額)	
				9,179,148	
				純資産の部合計	
				552,619,902	
				負債及び純資産の部合計	
				619,132,088	

表現活動

アトリエ創庫 あとりえそとこ スタート!

2017年5月9日より「アトリエ創庫」事業

心地の良い場所」を目指すことを第一の目標としています。

がスタートしました。今まではわかくさやゆうゆうなど、事業所別にクラブ活動などを通して表現活動に取り組んでいましたが、この「アトリエ創庫」は、既存の事業所とは別に、民家の倉庫を借り、事業所の枠組みを越えて表現活動に取り組めるスペースとなっております。「アトリエ創庫」は5月から7月現在まで全5回の活動をしました。利用者・職員が入り混じったこの空間は、必ずしも作品を制作する事にはこだわらず、居

作品制作という目的のためにアトリエ創庫があるのではなく、アトリエ創庫という「居心地の良い場所」で結果的に作品が生まれることを願っています。障害の有無に関わらず、人間に自己表現は欠かせないことだと思います。声を出す、ジャンプをする、音を鳴らす、お喋りする、笑う・・・そういった表現活動が「居心地の良い場所」でできたら、素敵ではないでしょうか。

わかくさ清水)



キーワードは「リラックス」

予定行事

九月

◆公開研修 9月2日(土)

時間/10:00~12:00

場所/戸田市文化会館

304会議室

◇テーマ

自分らしく地域で暮らしたい

◇内容

第一部 ひらく会と地域のつながりに

ついて

ひらく会

山崎理事長様

第二部

わかくさ会と地域のつながりに

ついて

皆さまと共に お互いに支え

合う地域づくり」を考える機

会となるように大勢の方の参

加をお待ちしています。



【広報委員会より】

今号のわかくさの風は当初7月号の予定でしたが、広報委員会の都合で8月号となりました。

(法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、指定特定相談支援事業所ひかり

(ホームページはこちら)

<http://www.wakakusa-kai.com/>

【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 戸田市新曽1522-1

TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298

(編集後記)

毎日、暑い日が続きますね。今号のわかくさの風が出来上がりましたのでぜひご覧ください。天候も不安定なこの時期は、気圧の変化によって体調にも影響を受けるそうです。日頃から食事や睡眠をしっかりとって、熱中症などに気を付けて、元気に過ごしていきたいものです。

(滑川)